

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学 校 名 晃 華 学 園 中 学 校 高 等 学 校  
(※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒182-8550  
東京都調布市佐須町5-28-1

E-mail uno-h@kokagakuen.ac.jp

Website <http://www.kokagakuen.ac.jp>

幼児児童生徒数 男子 0 名 女子 908 名 合計 908 名  
幼児・児童・生徒の年齢 11 歳～ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「世界に目を開く女性」を学校理念（※もしくは活動テーマ）として、ESDを「世界の平和・協調の根幹」と捉え、ESDの実践を通しての力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解、平和学習、ジェンダー学習を柱に、①国際理解に係わる活動、②ジェンダーに係わる教育、③平和に係わる学習、④環境・自然に係わる学習、⑤世界遺産・無形文化遺産に係わる学習、⑥模擬国連に係わる学習を行った。

### ① 国際理解に係わる活動 SDG 1, 2, 3

中学 1 年では、ユニセフ出前授業を実施した。本校では初めてのユネスコスクールでの学習である。世界の現状とともにユニセフの活動内容を知る機会となっている。「それでも生きる子供たちへ」も参考として視聴した。振り返りには、世界の現状への驚きと共にユニセフの活動の重要性を認識した様子が伺える。募金も実施した。

中学3年ではユニクロの「届けよう、服のチカラ」に参加し、文化祭で古着回収活動に参加した。活動に当たって、出前授業で難民の現状やUNHCRについての理解を深めた。募金も実施した。またカトリック教会の難民支援活動についても学習しさらに理解を深めた。

② ジェンダーに係わる教育 SDG 4, 5

高校1年では、「世界一大きな授業」に参加し、世界の教育の現状や女子の置かれた立場についてアクティブラーニング型の学習をした。また、プランインターナショナルジャパンの講演で、「Because I Am A Girl」活動について学び、映画「Girl Rising」も視聴した。生徒は世界における女子の差別的な状況に驚きを隠せず、自分にも出来ることは何かを探した。

③ 平和に係わる学習 SDG 16

中学2年では、ホロコースト教育資料センターの講演を実施した。事前に『アンネの日記』を読了しており、アンネ以外の女の子の人生についても学んだ。なぜホロコーストは起こったのか、どうすれば良いのかについて学んだ。

④ 環境・自然に係わる学習 SDG 12, 15

中学3年ではエコプロ2017に参加した。本年からSDGsのコーナーができるなどして、社会的な関心も高まった。

高校1年では4月の八ヶ岳合宿の際に北杜市によるユネスコエコパークについての説明があった。市のシカの駆除に関する具体的な数字が示され、事前に日本人にとってシカとは何かを考察してきた生徒たちには複雑な感情を催す内容であった。野生動物と人間との関わりについて学んだ。

⑤ 世界遺産・無形文化遺産に係わる学習

中学2年では、宝生流能楽師たちによる能楽ワークショップを実施した。伝統文化に触れる貴重な機会となった。

中学2年、高校1年では、修学旅行事前学習として世界遺産に関する授業を実施した。単に日本の遺産という視点ではなく、世界から見た遺産という視座を持つことができた。特に中2では世界遺産検定主任研究員によるレクチャーも実施した。世界遺産検定も準会場として実施した。

⑥ 模擬国連に係わる学習

本年も全日本高校生模擬国連に代表を出すことができた。また、中学生を含めて模擬国連の練習会にも参加し、他国代表（他校）との交渉を通じて国連の役割、難しさを実感することができた。

\* 今回、写真は用意できておりません。

① の写真 (キャプション)

③ の写真 (キャプション)

② の写真 (キャプション)

④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年に必ず1つは活動を配当している。内容は年齢に合わせて、段階を踏んで理解が深まるようにしている。各活動がSDGsのどのターゲットに合致するかを明示することで、持続可能性とどのように関わっているかを理解できるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールの活動を担当する分掌があり、予算も確保しているので、確実に継続的に取り組める体制ができている。ユネスコスクールに加盟してから6年経過したので、中高一貫6年間の流れを教員も把握出来るようになってきている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価となるとなかなか実施出来ないでいるのが現状である。上記③にも述べたが、教員がユネスコスクールとは何かをなかなか理解するのが難しかったが、6年経過した現在、以前に比べれば理解はかなり進んでいると思われるので、きちんとした内部評価はこれからが大事だと考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信は、これからの課題と考えている。なかなかそこまで手が回っていないのが現状である。ただし、ESDについての様々な催しには出席して情報を得てはいるので、これからの参考にしたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ESD活動支援センターの「ひとづくり2030」に教員4名、生徒3名で参加した。このシンポジウムに参加することで、SDGsとESDとのつながりを教員が理解でき、また新たなつながりが生じたので、今後も継続的に参加したい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール同士の交流はなかなか出来ていない。正直言って教員同士のつながりがないと難しいのではと考える。本校のこれからの課題である。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

例えば、上級生になってから、なぜユネスコス쿨の活動が重要かが分かったというコメントが出るようになった。6年間継続してきた成果と考える。これからはSDGsというわかりやすい指標があるので、教員の理解も得やすいと考える。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

中1：ユニセフ出前授業  
中2：ホロコースト学習、能楽ワークショップ  
中3：ユニクロ「服のチカラ」（UNHCR）、エコプロ2018、エコパーク学習  
高1：世界一大きな授業、ジェンダー学習（プランインターナショナルジャパン）  
高2：JICA出前講座  
  
全学年：世界遺産検定  
高校：模擬国連